



株式会社ニデック 環境報告書 2012

NIDEK Environmental Report 2012



THE ART OF EYE CARE



目次

環境経営の推進にあたり・行動憲章・方針

環境経営責任者からのメッセージ	2
企業行動憲章	3
環境方針	4
二デック環境管理推進組織図	5

環境活動

2011年度環境保全活動の目標と実績	6
2012年度環境保全活動の目的・目標と設定趣旨	7
工場の環境負荷概要	8-10
2011年度環境パフォーマンス	
CO2排出量 (参考: 浜町工場太陽光発電実績)	11
廃棄物量 / PRTR法対象化学物質使用量	12
環境調和型製品のご紹介	13
エネルギー / 資源消費量・廃棄物排出量の推移	
電力 / 重油	14
市水 / 最終廃棄物	15

社会活動・企業情報

CSRに関する取り組み	16-17
企業概要	18
工場概要	19
報告書基本情報 / お問い合わせ先	20

環境経営責任者からのメッセージ

2011年度の環境活動をご報告するにあたり、東日本大震災や台風による被害により、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

2011年は、日本のみならず、ニュージーランドやトルコでの大地震、タイでの大洪水など、自然災害の脅威を改めて認識させられた年となりました。私たちは、自然の脅威から身を守りながら共生していかなばならず、個人はもとより企業としてできることを常に新たな視点で模索することが、社会の一員として果たすべき役割ではないかと考えております。復興に向け国を挙げて取り組む中、眼科医療機器・眼鏡機器メーカーとしての役割を痛感し、ご期待に応えられるよう改めて社業の発展に邁進する所存です。



社業を通じて、また企業として社会に果たすべき役割を果たすため、まず当社は環境にやさしい事業運営への取り組みと安全管理や品質確保の取り組みを続けております。特に、環境への負荷を低減した製品の開発、最終廃棄物の再資源化推進などメーカーとしての取り組みや、節電、ガソリン使用量の削減をはじめとする日々の活動における取り組みなど、さまざまな角度から貢献できるよう努力をしております。

今後も、より良い社会づくりに貢献できるよう、環境経営の推進に努めてまいります。また、環境にとどまらず、国際社会のさまざまな要請に応えられるよう、企業の社会的責任を果たすべく活動の充実を図る所存です。

本報告と当社のウェブサイトを通じて、当社の取り組みについてご理解いただければ幸いです。

2012年7月31日

環境経営責任者
常務取締役
コート事業部長兼生産本部長

白井 康博

企業行動憲章

ニデックは、いつの時代も存在意義のある企業で在り続けるために、「Eye & Health Care」を核とした事業をグローバルに展開するとともに、国内外の法令及びその精神の遵守はもとより、高い倫理観と公平性をもって行動し、持続可能な社会の発展に貢献してまいります。

1. 人権の尊重

全ての人々の人権を尊重し、差別的な取扱いや個人の尊厳を損なう行為をしません。
また、児童労働や強制労働を認めません。

2. 透明性の高い企業活動の推進

様々なステークホルダーとのコミュニケーションを図るとともに、適宜適切に企業情報を提供し、透明性の高い企業活動を推進します。

3. 製品・サービスの品質・安全確保

人々が健康で快適な生活を送るために、新しい価値の創出に努めるとともに、安全で高品質の製品・サービスを提供し、お客様の満足と信頼が得られるよう努力します。

4. 環境問題への積極的な取組み

地球及び地域環境保全の重要性を認識し、循環型社会形成に寄与する改善活動を継続的に行います。

5. 社会との調和

良き企業市民として積極的に社会貢献活動の推進に努め、地域社会との調和を図ります。
また、海外においてはその文化や慣習を尊重し、地域の発展に貢献します。

6. 健全で快適な職場環境の実現

職場における社員の安全と健康を確保し、社員の経済的・精神的・時間的なゆとりと豊かさの実現に向け、働きやすい職場を形成します。

経営トップは、この企業行動憲章の精神を実現することが自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、社内に周知徹底します。万一この企業行動憲章に違反する事案が発生した場合は、経営トップ自らが問題解決にあたる姿勢を明らかにし、原因究明、再発防止に努めます。

2007年4月1日

株式会社ニデック

環境方針

当社は、Eye & Health Careの担い手として医療機器等の製造、販売及び、サービス活動を展開している。企業の社会的責任と地球及び地域環境保全の重要性を認識し、循環型社会形成に寄与する改善活動を継続的に行なうものとする。

1. 事業活動に伴う環境側面が環境に与える影響を的確に捉え、環境目的、及び目標を定め、全社員で取組み、環境負荷の低減及び地球温暖化防止を推進するとともに、環境マネジメントシステムの継続的改善を図る。
環境目的、及び目標は定期的に見直し、必要に応じ改定する。
2. 環境に係わる法律、規制、条例を順守し、利害関係者の意見を尊重する。
3. 事業活動、製品の製造、及びサービスが環境に与える影響を考慮し、特に次の事項について重点的に環境保全活動を推進する。
 - (1) 製品の環境調和
主力製品から、指定有害物質の排除を促進するとともに、グリーン調達を推進する。
 - (2) 省エネルギー
エネルギー消費の少ない製品設計、及び生産プロセスの導入等により省エネルギーを推進する。
 - (3) 廃棄物削減・省資源
資源の有効利用を図るとともに、本来の「ゼロエミッション」を推進して廃棄物等の総排出量の削減も図る。
 - (4) 環境社会貢献
CSRの観点から、環境情報の公開と、地域・社会とのコミュニケーションを通じて、環境保全に貢献する。
4. 環境教育、社内広報活動等により全社員の環境方針の理解及び環境保全に対する意識の向上を図る。また、関連会社に対し理解と協力を求める。

この環境方針は、社外からの要求に応じ公開する。

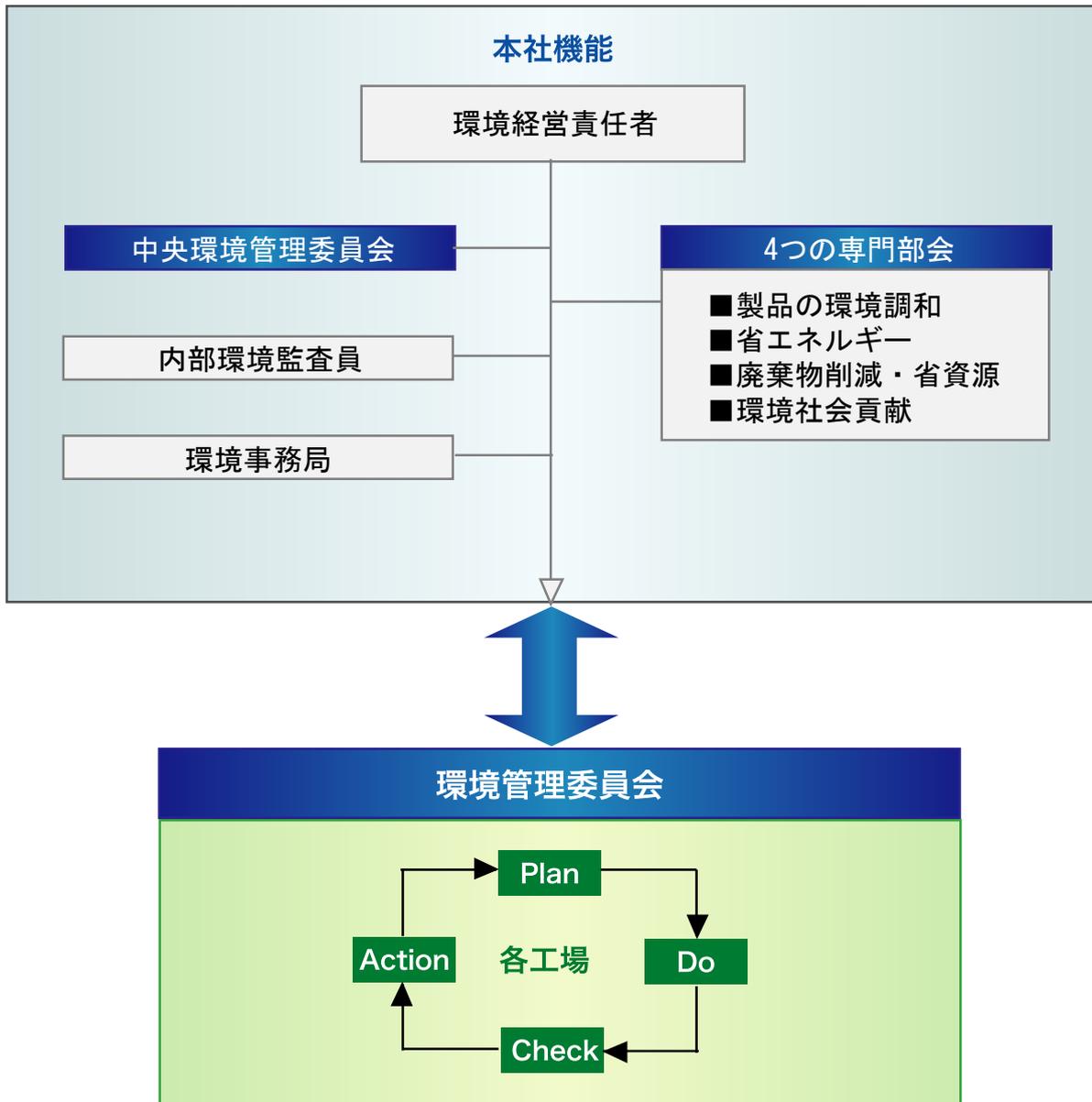
2010年8月23日

株式会社ニデック
環境経営責任者
白井 康博

第10版

二デック環境管理推進組織図

当社では、環境経営責任者の下に、中央環境管理委員会と4つの専門部会を設置しています。また、各工場に環境管理委員会を置き、工場ごとに改善点を見出し、改善に向けたPDCAサイクルをまわしています。工場ごとの活動を中央環境管理委員会に報告し共有することで、全社をあげた改善を続けています。



2011年度環境保全活動の目標と実績

2011年度の環境保全活動の目標と活動実績のまとめは、次のとおりです。削減項目については、目標値よりさらに低い削減率が達成できました。

	2011年度の目標	活動実績
製品の環境調和	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 環境法規制レビュー、必要な措置の検討及び関係部署への情報提供・指示 ▶ エコ設計（環境配慮設計）の推進（特機製品） 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 657件/年間の環境法規制関連情報等を提供済 ▶ 5機種の新製品について製品アセスメントを実施 ▶ 製品アセスメント規程(HEF019G)改訂、サーベイランス審査（医療機器開発本部対象）及びそれらのフォロー等により、医療機器開発本部にエコ設計の進展がみられる
省エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 売上比原単位電力消費量削減（2009年度比、2%削減） 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 原単位達成状況 実績：0.827kWh/千円 達成度：103.5% ▶ 各工場の省エネ対策 ▶ ・蛍光灯を省エネタイプに切り替え ▶ ・照明の間引き ▶ ・大型据え置きエアコンフィンの洗浄 ▶ ・DP-ecoによる蒸着機電力消費削減 ▶ ・チラー散水（2台） ▶ ・冷却水配水管保温工事
廃棄物削減・省資源	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 各サイト設定原単位廃棄物排出量削減（2009年度比、7%削減） 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 原単位達成状況 実績：0.007kg/千円、達成度：141.1% ▶ 有価物化の推進 ▶ ・機密書類の社内シュレッター化を推進 ▶ ・IPA及びアセトンの有価物化を実施
環境社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 社会貢献活動の継続 ▶ 環境報告書の内容吟味 同報告書作成と社員への啓蒙 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 環境に関する社内提案制度の継続（175件） ▶ エコキャップ回収は161,756個（ワクチン約202名分）で昨年に比べ1.07倍 ▶ エコポスターの作成による社員への啓蒙 ▶ カンボジアへノートパソコン30台を寄贈 ▶ エコモビリティの推進（エコ通勤の推奨）、本社駐輪場の増設 ▶ EVカーの導入（1台）

2012年度環境保全活動の目的・目標と設定趣旨

2012年度は、環境保全活動をさらに進めるため、特に削減率の引き上げを中心として目標を見直し、活動を推進します。エコ設計については、製品単位での展開から活動範囲を広げられるよう推進します。

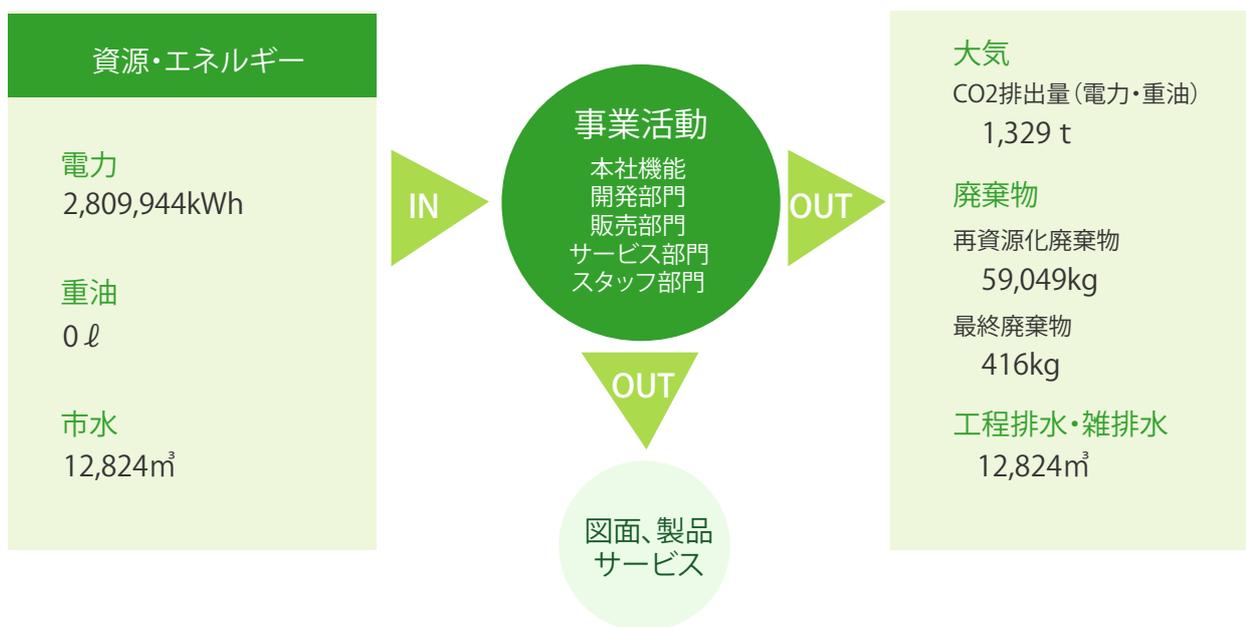
	2012年度の目的	2012年度の目標
製品の環境調和	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 環境法規制レビュー、必要な措置の実施 ▶ エコ設計(環境配慮設計)の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 環境法規制レビュー、必要な措置の検討及び関係部署への情報提供・指示 ▶ エコ設計の推進(特機製品)
省エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 原単位電力消費量削減(2012年度までに、2009年度比、3%削減) 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 売上比原単位電力消費量削減(2009年度比、3%削減)
廃棄物削減・省資源	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 廃棄物総排出量削減(2012年度までに、2009年度比、10%削減) 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 各サイト設定原単位廃棄物排出量削減(2009年度比、10%削減)
環境社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> ▶ CSRの観点から環境情報の公開と地域・社会とのコミュニケーションを通じて環境保全に貢献する 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 社会貢献活動の継続 ▶ 環境報告書の内容吟味 同報告書作成と社員への啓蒙

工場の環境負荷概要

本社(拾石工場)/浜町工場

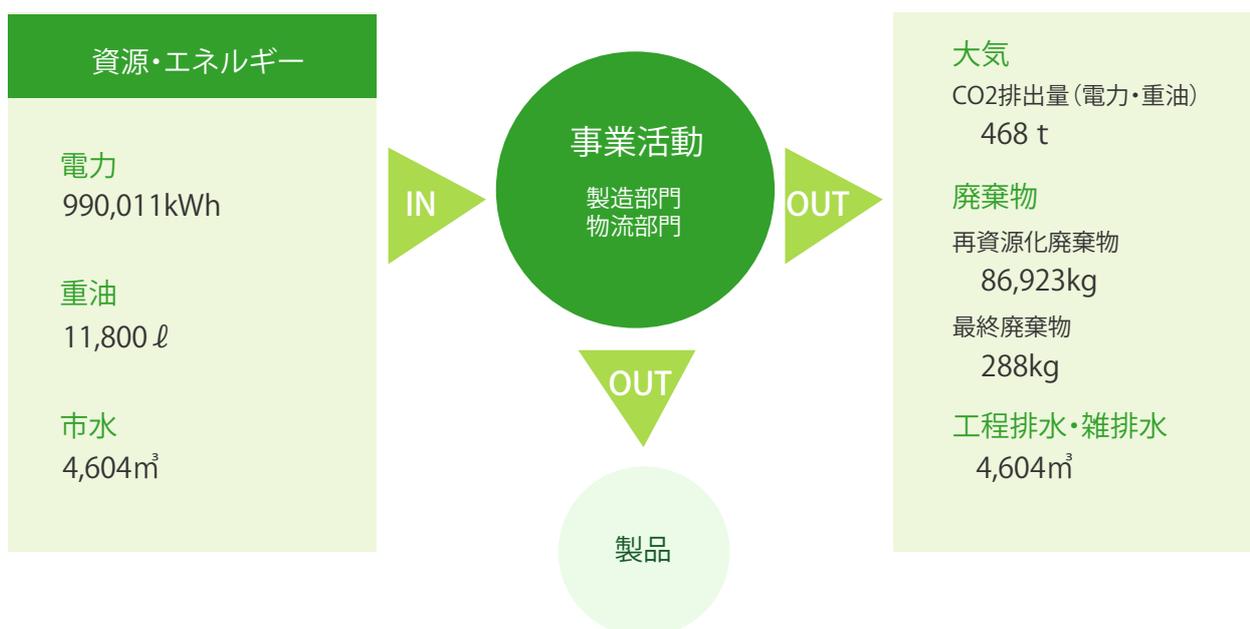
本社(拾石工場)

会社運営における本社機能を中心に、開発部門、一部の製造部門、販売部門、サービス部門、スタッフ部門が業務を展開しています。



浜町工場

製品の部品購入、組立、部品や製品の検査、および物流の専門工場です。太陽光発電設備を備えています。

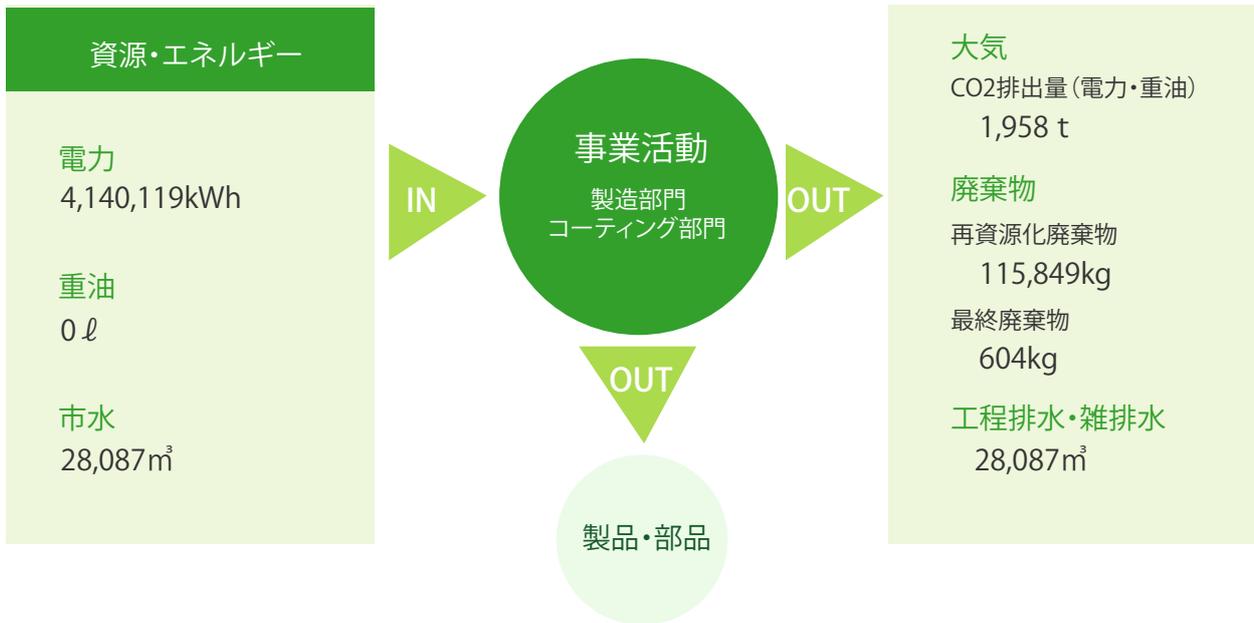


工場の環境負荷概要

鶴ヶ浜工場/東浜工場

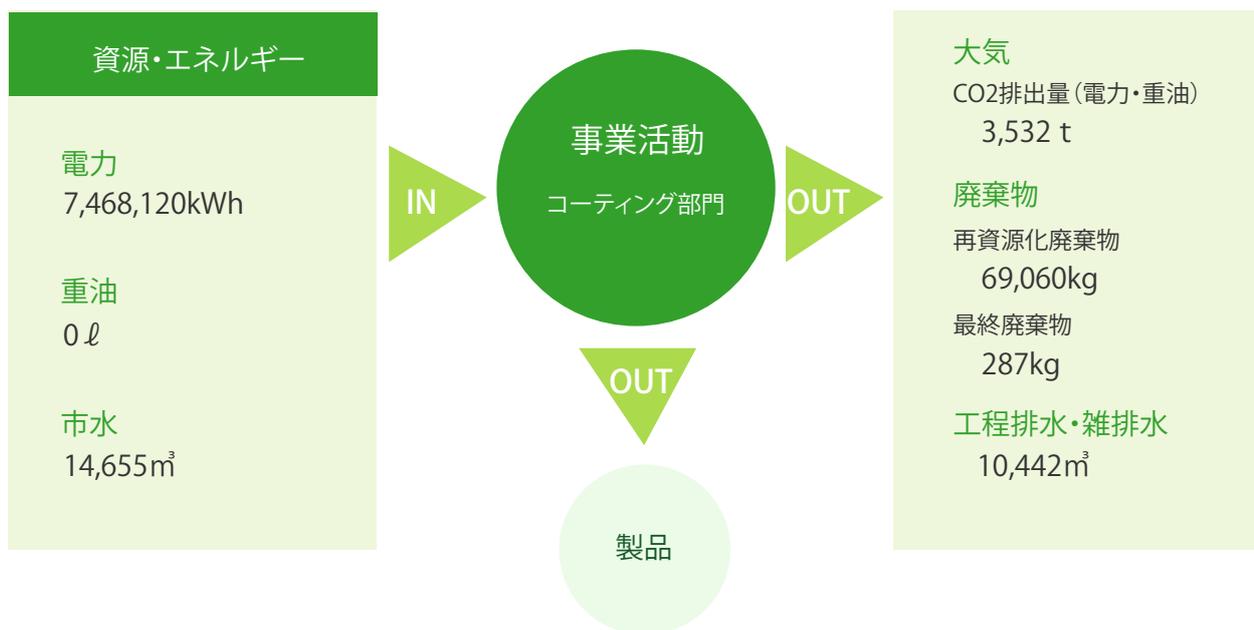
鶴ヶ浜工場

光学部品など製品内で使用する部品の製造や、眼鏡レンズへのコーティングをおこなう工場です。



東浜工場

光学フィルターなどのコーティング工場として操業しています。

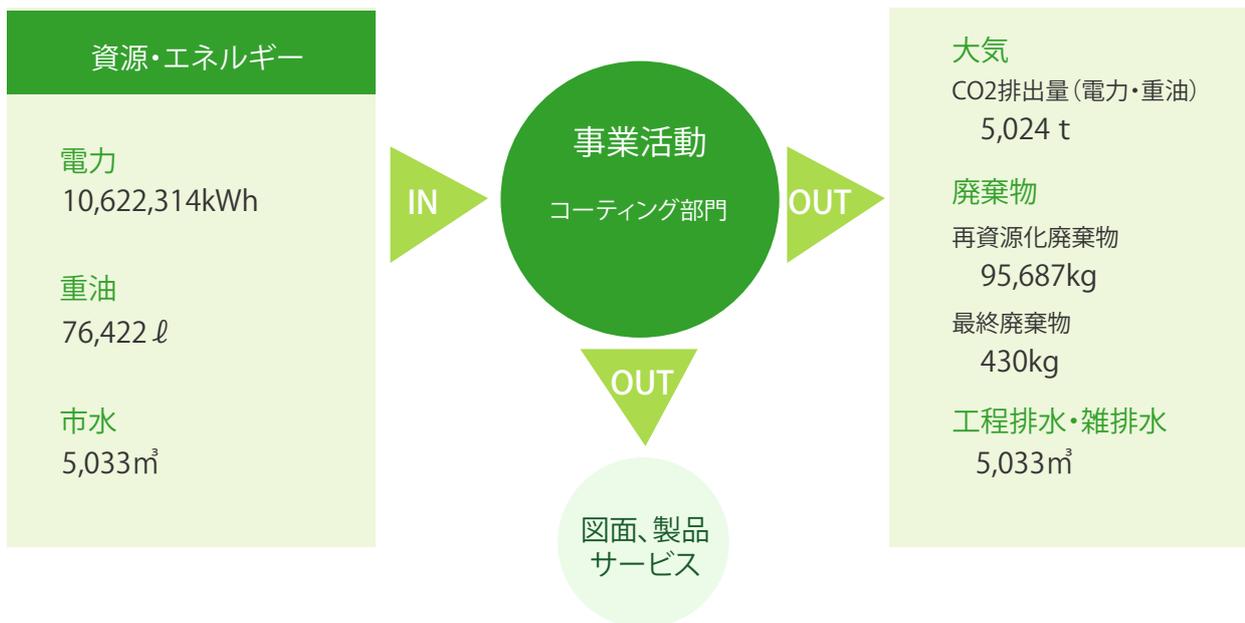


工場の環境負荷概要

大沢工場

大沢工場

光学部品やディスプレイなどの基板表面へ、反射防止膜をはじめとするさまざまなコーティングをおこなう工場です。真空蒸着によるコーティング工場としては日本最大級の設備を備えています。



COLUMN

家庭でできる環境保護活動

「環境家計簿」

企業だけでなく、私たちの毎日の暮らしの中で、たくさんのエネルギーが消費されています。家庭での環境負荷にも目を向けて使用量をチェックすれば、CO2削減や環境保護へとつながります。「環境家計簿」は、エネルギー使用量をCO2排出量に換算するものです。また、環境家計簿を提供するWebサイトでは、ゲームやコラムを通じて省エネに関する情報を得られます。環境家計簿で、エコ意識をさらに育ててみませんか。

環境家計簿の参考となるWebサイト

- 一般社団法人日本ガス協会
<http://www.gas.or.jp/default.html>
- 関西電力
<http://www1.kepco.co.jp/kankyoku/co2kakeibo/index.html>



2011年度環境パフォーマンス CO2排出量(電力及び燃料)

●使用資源・エネルギー別の排出量

各資源/エネルギーの使用量をCO2に換算した場合、電力によるCO2排出が大半であることが読み取れます。当社では、日頃から電力の節約に全社的に力を入れております。本年度から、より正確なCO2排出量を算出するため、係数は環境省発表の係数を採択したため、前年度より厳しい結果となりました。



電力

12,312t
(全体の98.0%)



A重油

239.09 t
(全体の1.9%)



ガソリン

1.99t
(微量)



軽油

1.12t
(微量)

総計 11261.7 t
前年比 111.4% *1

*1 前年度に使用した係数と異なるため単純比較にはなりません、参考値として掲載しています。



当社の取り組み

「太陽光発電量」

当社は、燃料を使用したCO2の排出量を削減するため、2009年3月から、浜町工場の屋上に太陽光発電システムを導入しました。太陽光発電による電力は、浜町工場の電力の一部として利用しています。

2011年度の月別の発電量(*)実績は、日照量に応じて変動はありますが、年間約62,614.7kWhの電力を発電しています。
*パワーコンディショナー出力電力量



太陽光による発電により、どのくらいCO2の削減ができたのでしょうか。木が吸収するCO2量に換算して考えると、2011年度は約1,406本の杉の木を植樹したことで同じ効果を得られました。



約1,406本

植樹の本数 = 発電量(kWh) × 0.02246

杉の木⇒1本あたり約14KgのCO2を吸収

計算係数:「地球温暖化防止のための緑の吸収源対策」 環境庁・林野庁を参考に計算式を算出

2011年度環境パフォーマンス

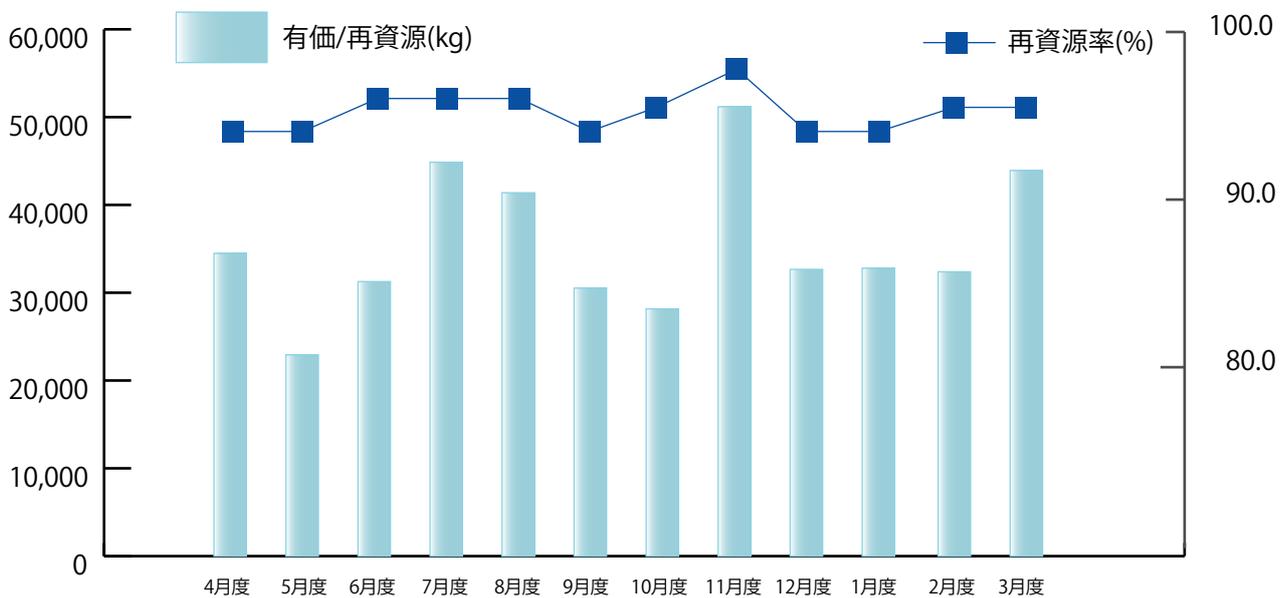
廃棄物量/PRTR法対象化学物質使用量

●廃棄物量／再資源化率の月別推移

廃棄物のゼロエミッション達成に向け、最終廃棄物の内容分析をし、再資源化率の向上を目指して全社的に活動を展開しています。2011年度は、99%以上の再資源化を通年で達成することができました。

単位：kg

	4月度	5月度	6月度	7月度	8月度	9月度	10月度	11月度	12月度	1月度	2月度	3月度	合計
有価/再資源	34,485	22,933	31,266	44,864	41,385	30,528	28,160	51,180	32,659	32,795	32,386	43,927	426,568
最終廃棄	214	147	128	163	147	176	148	126	188	185	164	238	2,024
合計	34,699	23,080	31,394	45,027	41,532	30,704	28,308	51,306	32,847	32,980	32,550	44,164	428,592
再資源化率	99.4%	99.4%	99.6%	99.6%	99.6%	99.4%	99.5%	99.8%	99.4%	99.4%	99.5%	99.5%	99.5%



●特別管理産業廃棄物量

特別管理産業廃棄物は、1事業所で年間50t以上排出すると、多量排出事業所として行政への報告が必要になります。2011年度は、生産量の増加により対前年比で113.0%と排出量が増加しました。次年度では、生産量の増加は差し引きながらも、最低限の廃棄物量に留められるよう、排出量のチェックと削減努力を強化します。

	拾石工場	浜町工場	鶴ヶ浜工場	東浜工場	大沢工場	計	対前年比
排出量	14,780	4,245	36,133	22,020	36	77,214	113.0%

単位：kg

●PRTR法対象化学物質使用量

PRTR法(*)に基づく第一種指定化学物質の2011年度の使用量について、経済産業省への届出対象となる鶴ヶ浜工場の使用量です。

鶴ヶ浜工場HCFC-225：1,100 kg (2010年度より△1,000 kg)

*特定化学物質の環境への排出量の把握および管理の改善の促進に関する法律

環境調和型製品のご紹介

当社は、環境関連法規制への対応はもちろんのこと、環境への負荷を低減した製品の開発・製造を推進しております。2011年度には3つの環境調和型製品を発売いたしました。いずれも環境に配慮した設計により、性能や機能を向上させながらも、環境への負荷低減を実現した製品です。

●2011年度に発売した環境調和型製品

スペキュラーマイクロスコープ CEM-530

眼科で使用される眼の角膜と言われる部分の最も内側に位置する細胞を撮影する検眼装置で、従来装置の中心および周辺部撮影に加えて傍中心（パラセントラル）領域の撮影が可能です。

この装置の特徴として、分解が容易にできる製品設計であり、また、環境にやさしい部品や材料を採用しています。このような設計により再資源化率を約78%とし、環境保全に貢献しています。



スペースセイビングチャート SSC-370

測定距離を確保することが難しい場所でも設置が可能で、測定室のレイアウトに自由に合わせられるコンパクトな視力表です。

従来機と比べ、製品本体に使用する部品点数を17%削減しました。また、ネジの種類及び数とも40%以上削減するなど、分解が容易な設計を採用し廃棄物削減や省資源化に貢献しています。



自動視力計 ニデックビジョン NV-350

音声ガイドに従いレバーを操作するだけで、簡単に視力が測定できる自動視力計です。使用電力を従来機と比べ約35%低減し省エネルギー化を実現しました。また、本体重量も30%軽量化し、廃棄物削減や省資源化にも貢献しています。



製品の環境調和専門部会からのメッセージ

環境調和型製品の創出においては、製品のライフサイクル（製品の材料調達、製造、輸送、使用、廃棄にいたる一連の工程）全体から環境負荷を把握し、さまざまな角度からの改善を進めています。

環境負荷低減には「製品アセスメント実施規程」を基に、企画・設計段階から負荷低減を考えた活動が重要と位置づけ、開発部門や製造部門が連携し、積極的な改善に取り組んでいます。具体的には、再資源化が容易な製品材料の選択、部品点数やネジの数の減少、包装資材の省資源化、製品廃棄時における廃棄手順書の提供などです。

今後も環境調和型製品の開発を推進し続けることにより、地球環境の負荷低減に努めていきます。

製品の環境調和専門部会
部会長 嶋崎 寛（品質保証部 部長）

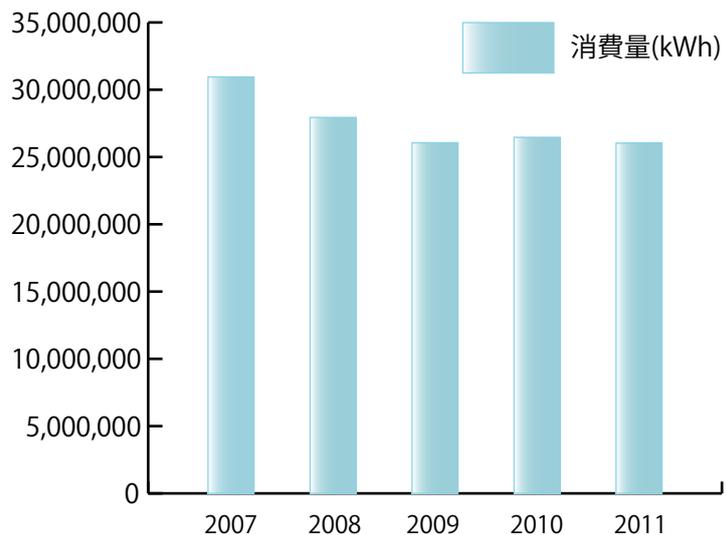
エネルギー/資源消費量・廃棄物排出量の推移

電力/重油

●電力消費量

電力消費量は、各工場における継続的な省エネ活動と、2011年度の全国的な節電に対する取り組みの成果により、2010年度に比べて低減することができました。

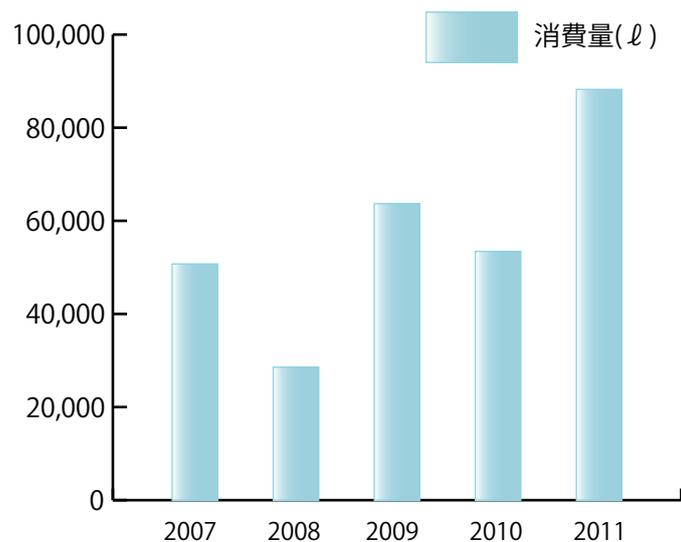
年度	消費量 (kWh)
2007	30,953,822
2008	27,940,659
2009	26,061,446
2010	26,465,755
2011	26,030,508



●重油消費量

2007年度以降、重油消費量を大幅に削減することができましたが、生産量の変動により、2011年度の消費量は増加しました。本社(拾石工場)、鶴ヶ浜工場、東浜工場では、使用量が0となりました。

年度	消費量 (ℓ)
2007	50,747
2008	28,571
2009	63,686
2010	53,434
2011	88,222

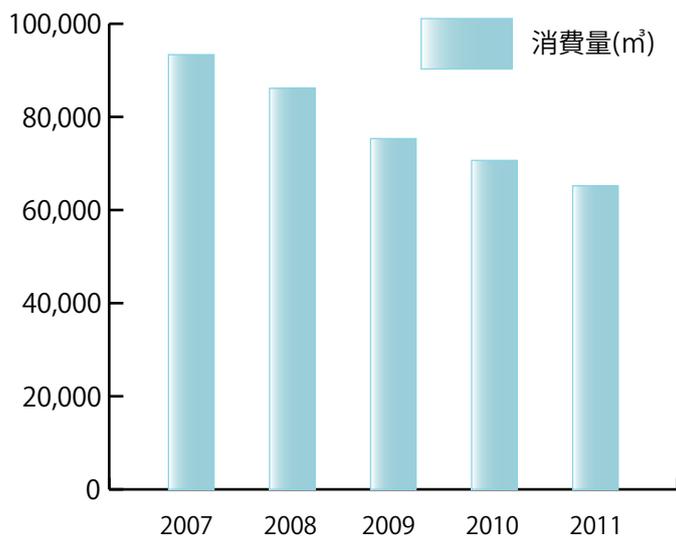


エネルギー/資源消費量・廃棄物排出量の推移 市水/最終廃棄物

●市水消費量

コーティング工場の洗浄過程での効率性向上による節水成果が着実にあらわれており、市水消費量は年々減少しています。

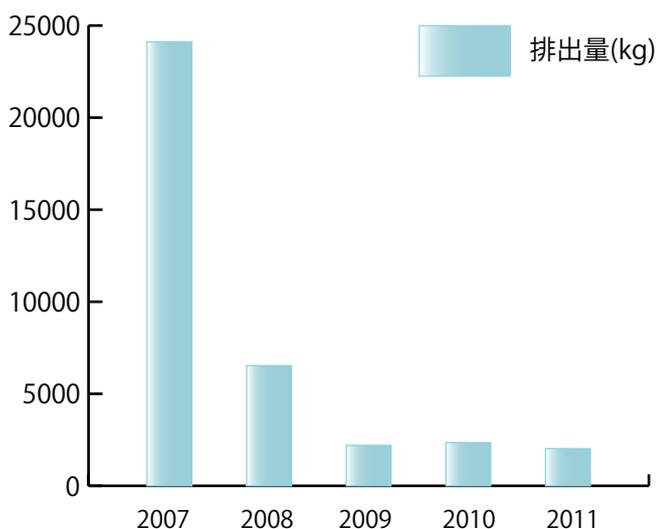
年度	消費量 (m ³)
2007	93,370
2008	86,134
2009	75,339
2010	70,650
2011	65,203



●最終廃棄物排出量

2006～2008年の3ヵ年計画で「ゼロエミッション」(*)達成を目標に掲げ、全社を挙げて廃棄物の削減や再資源化の努力を続けた結果、排出量の大幅な削減に成功しました。

年度	消費量 (kg)
2007	24,119
2008	6,529
2009	2,201
2010	2,352
2011	2,025



当社のゼロエミッション

「廃棄物の再資源化率を99%以上」とする。

再資源化率は、「(総排出量 - 最終廃棄物) ÷ 総排出量」で算出する。

*「本来業務での環境負荷低減活動」を実施に際しては廃棄物の単純焼却と埋立てをゼロにすることを視野に入れ、ごみゼロ工場を目指す。

CSRに関する取り組み

当社では、企業行動憲章(4ページ参照)に基き、CSR(企業の社会的責任)の観点から、本業を通じ、また当社でできる活動を展開しています。エコキャップ運動、地域の美化活動などの環境保全活動や、各種の社会貢献活動に取り組んでいます。2011年度に当社が実施した活動の一部をご紹介します。

●東日本大震災への寄附活動

地震発生後に当社としての義捐金1,000万円を日本赤十字社寄附した後、役員・社員からの募金活動を継続しておこなった結果、4月末日までに1,737,732円の義援金が集まりました。

全額を、日本赤十字社を通じて被災地の復興支援のために寄附いたしました。



●クリーンキャンペーンでの清掃活動

年に2回の蒲郡市のクリーンキャンペーンに合わせ、各工場の周りを清掃する活動に継続的に参加しています。また、ニデック・フィッシングクラブも、11年間連続で蒲郡市のクリーンキャンペーンでの清掃活動にボランティアとして参加しており、定期的な活動として定着しています。



●創立40周年を記念した寄贈・協賛

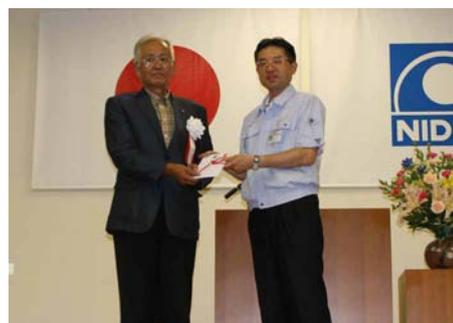
創立40周年を記念して、本社所在地である蒲郡市に関する活動や機関・団体に対し、次のとおり寄贈・協賛をおこないました。

■ 寄贈

- ・蒲郡市保健センター
新製品「自動視力計 NV-350」1台
- ・蒲郡市民病院
輸液スタンド50台

■ 協賛

- ・日本障害者セーリング協会
- ・小学生向け「水辺の安全教室」
(主催:ラグーナ蒲郡、共催:蒲郡商工会議所)



CSRに関する取り組み

●蒲郡市の科学館でワークショップを実施

近隣の小学生を対象とした科学館の夏休みワークショップの趣旨に賛同し、毎年参加しています。2011年度は、偏光板を用いたしおり作りを通じて、ものの見え方や光のふしぎについて学ぶワークショップを実施しました。夏休み中の平日に2回開催し、合わせて50名が参加しました。



●蒲郡市の小・中学校で「目の講演」を実施

2010年度から、蒲郡市の小・中学校の保健集会などで、目の健康に関する講演を実施しています。2011年度は、2校で約700名に対し講演をおこないました。目がものを見るしくみの説明のほか、“盲点”を探る実験や“錯視(目の錯覚)”の体験を通じて、目についての理解を深めてもらいながら、大切にしてくださいようお願いをしました。



●ノートパソコンをカンボジアの中学校へ寄贈

NPO法人オアシス(*)へ、当社で以前使用していたノートパソコン 30台の寄贈をおこないました。カンボジアではいまだ子どもたちの就学率が低く、特に中学校への進学率は2割程度です。同法人の支援により学校が建設され、当社から寄贈したパソコンは授業で使用されます。



(*)NPO法人オアシス

国内外マジック慰問講演、学校建設および修復、自然環境保全のための植樹、医薬品の供与を活動目的とする、蒲郡市に事務所を構えるNPO法人です。

●EVカーの導入

社用車として、EVカーを1台導入しました。現在は、おもにお客様の送迎と企業広報用として使用しています。また、既存のガソリン車へは、全営業車両にドライブレコーダーを設置し、安全運転、経済速度運行に努めた結果、昨年度に比べてガソリン使用量が大幅に削減されました。



企業概要

名称	株式会社ニデック
本社	〒443-0038 愛知県蒲郡市拾石町前浜 34-14 Tel. 0533-67-6611
代表者	代表取締役社長 小澤素生
設立	1971年7月7日（創業日8月8日）
資本金	4億6189万円
売上高	374.7億円（2007年度） 333.5億円（2008年度） 299.2億円（2009年度） 307.9億円（2010年度） 314.8億円（2011年度）
従業員数	1,399名（2012年3月末日現在）

●事業内容



医療分野

高精度な眼科向け手術装置、レーザー機器、検査診断装置などの開発・製造・販売を総合的にこなしています。近年では、活躍の場を健診分野にも広げています。



眼鏡機器分野

視力測定、レンズ測定、レンズ加工といったメガネづくりの全工程を支えているのは、ニデックの“確かな技術”です。省スペース化、作業の効率化を実現し、見える喜び、かける喜びを感じていただくお手伝いをしています。

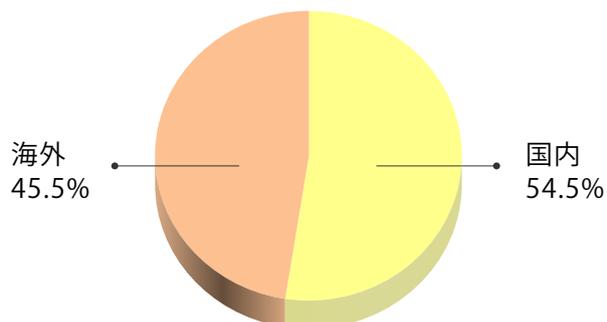


コーティング分野

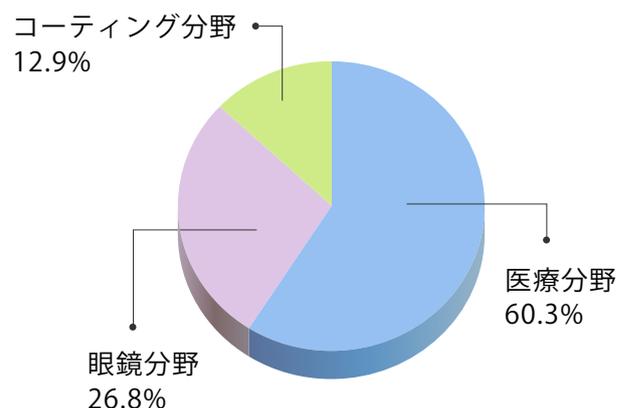
コーティングは、光学材料などへの反射防止や、特定波長だけを透過・反射させる“光を操る先端技術”です。メガネレンズをはじめ、情報通信・自動車・医療・宇宙工学など、多彩な分野で活用されています。

●2011年度売上比率データ

海外輸出比率



売上構成比率



工場概要

●本社(拾石工場)



住所 〒443-0038 愛知県蒲郡市拾石町前浜34-14
環境管理責任者 総務部 部長 近藤雅人
敷地面積 28,372 m²
建物(延) 13,199 m²
従業員数 617名
設置 1976年(昭和51年)

●東浜工場



住所 〒443-0036 愛知県蒲郡市浜町73-1
環境管理責任者 コート生産部 部長 石井雅敏
敷地面積 13,155 m²
建物(延) 8,992 m²
従業員数 85名
設置 1996年(平成8年)

●浜町工場



住所 〒443-0036 愛知県蒲郡市浜町67-4
環境管理責任者 医療/眼鏡機器製造部 部長 加藤真吾
敷地面積 22,200 m²
建物(延) 13,326 m²
従業員数 315名
設置 1984年(昭和59年)

●大沢工場



住所 〒443-0104 愛知県蒲郡市形原町大沢27-4
環境管理責任者 コート事業企画室 室長 柴田芳宏
敷地面積 57,395 m²
建物(延) 11,032 m²
従業員数 135名
設置 2000年(平成12年)

●鶴ヶ浜工場



住所 〒443-0036 愛知県蒲郡市浜町23-1
環境管理責任者 部品製造部 部長 植村克彦
敷地面積 14,820 m²
建物(延) 6,870 m²
従業員数 111名
設置 1989年(平成元年)

敷地面積、建物(延)、従業員数：2012年3月31日時点
従業員数：本頁では役員、顧問、嘱託/パート/派遣社員を含む

報告書基本情報/お問い合わせ先

●報告書基本情報

報告対象組織:株式会社ニデック

本社(拾石工場)
浜町工場(研究棟除く)
鶴ヶ浜工場
東浜工場
大沢工場

報告対象期間:2011年4月1日~2012年3月31日

発行日: 2012年7月31日

作成部署: 環境社会貢献部会/企画部

●お問い合わせ先

企画部 広報課

Tel: 0533-67-6753

Fax: 0533-67-6610

E-mail: info@nidek.co.jp

※ 当社に関する詳しい情報は、Webサイトをご覧ください。
URL <http://www.nidek.co.jp>

